

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	A-52C	20-023 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Risk of colorectal cancer in patients with alcoholism: A nationwide, population-based nested case-control study アルコール依存症患者の大腸癌リスク：全国の地域住民を対象としたコホート内症例対照研究		
執筆者		
Lin TC, Chien WC, Hu JM, Tzeng NS, Chung CH, Pu TW, Hsiao CW, Chen CY.		
掲載誌		
PLoS One.2020 May 12;15(5):e0232740. doi:10.1371/journal.pone.0232740. eCollection 2020.		
キーワード	PMID	
大腸癌、アルコール依存症、コホート内症例対照研究	32396577	
要 旨		
<p>目的： 大腸癌は多因子性の疾患であり、多くのリスク因子がアルコール依存症と重複している。しかしながら、アルコール依存症と大腸癌の関連については議論が分かれているのが現状である。本研究では、これらの関連を明らかにすることを目的とした。</p> <p>方法： 台湾の National Health Insurance Research Database よりランダムに抽出された Longitudinal Health Insurance Database 2013 を用いて、2000-2013 年の 989,753 名のデータを収集し、大規模な地域住民を対象としたコホート内症例対照研究を行った。ICD-9-CM により大腸癌と診断された 49,095 名を症例群とした。性別、年齢、大腸癌の診断がついた日付、毎年の医療機関の受診状況を基に、症例：対照が 1：3 となるように傾向スコアマッチングを行い、147,285 名から成る対照群を設定した。年齢、性別、受診場所、病院の規模、居住地の都市化の程度、保険の種類、併存疾患で調整した多変量ロジスティック回帰分析、また各因子による層別解析を行い、アルコール依存症と大腸癌の関連を評価した。</p> <p>結果： アルコール依存症の患者では、大腸癌リスクが有意に高かった（調整オッズ比 1.631; 95% CI 1.565-1.699）。さらに、アルコール依存症の期間と大腸癌リスクの間に時間依存性の関連が認められた（アルコール依存症の罹患歴 1 年以上、2 年以上、5 年以上、11 年以上の群において、調整オッズ比; 95% CI は、それぞれ 1.875; 1.788-1.967、2.050; 1.948-2.158、2.662; 2.498-2.835、2.670; 2.511-2.989 であった）。</p> <p>結論： アルコール依存症と大腸癌リスクの間に正の関連があることが明らかとなった。また、より長期間アルコール依存症であった患者は、大腸癌を発症しやすく、アルコール依存症と大腸癌の間には時間依存性の関連があることが明らかとなった。</p>		